

2023年8月24日

アール・ブリュット 2023 巡回展

ディア ストーリーズ

ものがたり、かたりあう

Art Brut 2023 Touring Exhibition

Dear Stories: Tales and Talks



観覧料無料 | Free admission

畑中亜未《無題》、制作年不詳、部分

東京都渋谷公園通りギャラリーは、東京都と共に、アール・ブリュット 2023 巡回展「ディア ストーリーズ ものがたり、かたりあう」を、都内3会場にて順次開催いたします。「ものがたり」をテーマに、皆さまに、アール・ブリュットの魅力を体感していただける展覧会です。

▶アール・ブリュット (Art Brut) とは

フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエによって提唱されたことばです。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表します。

会期

2023年9月24日(日) - 10月4日(水) すみだりバーサイドホールギャラリー
2023年10月21日(土) - 12月24日(日) 東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1・2
2024年1月24日(水) - 2月7日(水) たましん RISURU ホール (立川市市民会館) 展示室

出展作家

鎌江 一美、富永 武、畑中 亜未、hideki、松本 寛庸、ミルカ、山崎 健一



展覧会概要

本展では、その独創性あふれる表現方法により、近年、国内外で注目されるアール・ブリュット作家7名の作品を紹介します。自らの存在を確かめるような「語り」から、他者と共有できる「物語」まで、人は日々さまざまな「ものがたり」と共にあります。本展では、作家それぞれの創作の過程や作品世界における「ものがたり」を味わい、語り合うことをテーマとしています。

“思いを寄せる誰かの姿を架空のストーリーを込めてかたどること”、“飲み終わったビールの空き缶で唯一無二のからくり人形を作ってみること”、“暮らしの断片に向けられるまなざしと、そこに生まれる詩的なあじわい”、“空想の街のジオラマづくりと、そのジオラマに刻まれた‘増殖解体’の熱量の痕跡”、“宇宙や歴史を題材に俯瞰した時空間を捉えようとする”、“大好きな色鮮やかな鳥を描き夢想する世界を彩ること”、“かつての高度経済成長期の建設労働の記憶と方眼紙に残された数々の描画”。**ここには、作家の独自の体験を通じた「語り」の姿と、「物語」として広がる地平が織り交ざりながら存在し、わたしたちの感受や想像をより豊かに刺激します。**

本展が、「ものがたり」への思索を通じて、多様な人の創造性との出会いをつくり、語り合う機会となることを願います。

作家紹介

鎌江 一美 KAMAIE Kazumi

1966年滋賀県生まれ

2006年から土粘土による創作を始め、所属する「やまなみ工房」施設長の「まさとさん」をかたどる作品を作り続ける。代表的な参加展覧会として「アール・ブリュット・ジャポネ」（2010-2011年、フランス、パリ、アル・サン・ピエール）などがある。



鎌江一美《ラーメンを食べに行く私とまさとさん》 2021年、やまなみ工房蔵
画像提供：やまなみ工房

富永 武 TOMINAGA Takeshi

1948年大阪府生まれ

2013年頃より大阪の釜ヶ崎で生活を送るなか、日課の図書館での読書を通じて「からくり人形」の存在を知り、独学で創作し始める。代表的な参加展覧会として、「かたどりの法則」（2018-2019年、広島、鞆の津ミュージアム）などがある。



富永武《通天閣（俺が飲まなければ誰が飲む）》 制作年不詳、個人蔵
画像提供：鞆の津ミュージアム

畑中 亜未 HATANAKA Tsugumi

1973年北海道生まれ

生活用品から自然現象まで幅広く、独自のモチーフ選びや大胆な画面上の配置を行い、クレヨンを塗り込む筆致で描く。代表的な参加展覧会として「アール・ブリュット・ジャポネ」（2010-2011年、フランス、パリ、アル・サン・ピエール）などがある。



畑中亜未《ピンクの口紅（2本）》 制作年不詳、作家蔵
撮影：五十嵐一晴

hideki hideki

1981年埼玉県生まれ

廃材やボンドなどミクストメディアで作る空想の街のジオラマを、10年近くかけて自宅内で完成させ、その後も作り変えることを繰り返している。代表的な参加展覧会として「アール・ブリュット☆アート☆日本2」（2015年、滋賀、ポードレス・アートミュージアム NO-MA）などがある。



hideki《北仙台駅》2023年、作家蔵
撮影：五十嵐一晴

松本 寛庸 MATSUMOTO Hironobu

1991年北海道生まれ、幼少期に熊本県へ移る

動物や昆虫などの生き物から、宇宙や歴史へと関心がひろがる。図鑑や本から得た知識を抽象度のある視覚イメージの世界に展開させる。代表的な参加展覧会として、「『KOMOREBI』日本のアール・ブリュット」（2017-2018年、フランス、ナント、リュウ・ユニック）などがある。



松本寛庸《ブラックホール》2012年、作家蔵
©Matsumoto Hironobu

ミルカ MIRUKA

1992年大阪府生まれ

色彩豊かな鳥を色鉛筆で緻密に描き、淡い色の音符を敷き詰めた背景とのコントラストで独自の世界を創る。大阪府内の「YELLOW」に所属。代表的な参加展覧会として「日本のアール・ブリュット もうひとつの眼差し」（2018-2019年スイス、ローザンヌ アール・ブリュット・コレクション）などがある。

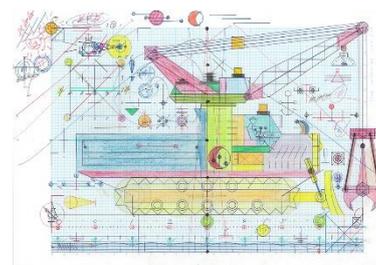


ミルカ《アオフウチョウ》2017年、YELLOW蔵
画像提供：YELLOW

山崎 健一 YAMAZAKI Kenichi

1944年新潟県生まれ、2015年没

入院中の病室で方眼紙にコンパスや定規、ボールペンなどを使い、描き続けた作品が3,000点ほど残される。代表的な参加展覧会として「アール・ブリュット・ジャポネ」（2010-2011年、フランス、パリ、アル・サン・ピエール）などがある。



山崎健一《クレーンダンプ》制作年不詳、個人蔵
画像提供：社会福祉法人グロー（GLOW）

音声ガイド（全会場・無料）

本展の音声ガイドナビゲーターは森崎 ウィンさん。

アール・ブリュット作家7名の作品に込められた“ストーリー”やその魅力を、森崎さんの語りでお楽しみいただけます。

森崎 ウィン

俳優・アーティスト。ミャンマー出身、映画・ドラマ・舞台等で活躍。2018年ハリウッドデビュー。2020年、アジアから世界に発信するエンターテイナーとしてメジャーデビュー。ミュージカルでも『SPY×FAMILY』（2023）などの話題作で主演。



関連イベント（全て、東京都渋谷公園通りギャラリーにて開催します。）

■ トークイベント [事前申込制] *手話通訳付き

開催日時 | 2023年10月21日（土） 17:00-18:30

会場 | 東京都渋谷公園通りギャラリー

申し込み | 2023年9月27日（水）より先着順

定員 | 25名程度

ゲスト | 上田 假奈代（詩人、釜ヶ崎芸術大学主宰） × 岸 政彦（社会学者、京都大学教授）

上田 假奈代 UEDA Kanayo

1969年・吉野生まれ。詩人・詩業家、釜ヶ崎芸術大学主宰。

3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ。2001年「ことばを人生の味方に、詩業家宣言」。2003年、大阪・新世界で喫茶店のふりをしたアートNPO「ココルーム」を立ち上げ、釜ヶ崎に移転し、2012年「釜ヶ崎芸術大学」開講。2016年ゲストハウスのふりもはじめ、釜ヶ崎のおじさんたちとの井戸掘りなど、あの手この手で地域との協働をはかる。



©Mai Narita

岸 政彦 KISHI Masahiko

1967年生まれ。社会学者・作家。京都大学教授。

研究テーマは沖縄、生活史、社会調査方法論。著書や編著に『断片的なものの社会学』（朝日出版社、2015年、紀伊國屋じんぶん大賞2016受賞）、『東京の生活史』（筑摩書房、2021年）ほか、多数。多様な人の個人の生活史から、人々の歴史をつむぐ研究、創作を続ける。



■ 詩のワークショップ [事前申込制] *手話通訳付き

開催日時 | 2023年10月22日（日） 14:00-16:00

会場 | 東京都渋谷公園通りギャラリー

申し込み | 2023年9月27日（水）より先着順

定員 | 20名（中学生以上）

講師/ファシリテーター | 上田 假奈代

■ 分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」といっしょに鑑賞ツアー

[事前申込制]

開催日時 | 2023年11月10日（金） 19:00-20:00（開館時間外）

2023年11月18日（土） 10:00-11:00（開館時間外）

会場 | 東京都渋谷公園通りギャラリー および オンライン

申し込み | 2023年10月11日（水） - 10月24日（火）

抽選の上、ご参加いただける方には10月27日（金）までにメールにてご連絡いたします。

定員 | 各回6名（遠隔参加2名、会場参加4名）



@OryLab inc.

※『OriHime』は株式会社オリィ研究所の登録商標です。

上記のほかにも、ギャラリートーク（手話通訳付き）、視覚障害のある方のための鑑賞ツアー、「やさしい日本語」とイラストでわかりやすく紹介するパンフレットを予定しています。

関連イベントへの参加申込方法など詳細は、当ギャラリーWEBサイト <https://inclusion-art.jp/s/talesandtalks> をご覧ください。

開催概要

展覧会名 | **アール・ブリュット 2023 巡回展 「ディア ストーリーズ ものがたり、かたりあう」**

会場・会期 | 第1会場 **すみだリバーサイドホールギャラリー**

2023年9月24日(日) - 10月4日(水) 10:00-17:00 ※会期中休館なし

第2会場 **東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1・2**

2023年10月21日(土) - 12月24日(日) 11:00-19:00 ※月曜休館

第3会場 **たましん RISURU ホール (立川市市民会館) 展示室**

2024年1月24日(水) - 2月7日(水) 10:00-17:00 ※会期中休館なし

出張イベント **プリモホールゆとろぎ (羽村市生涯学習センター) 展示室**

2023年11月26日(日)

※詳細は後日、当ギャラリーWEBサイトにてお知らせいたします。

観覧料 | **無料**

出展作家 | 鎌江 一美、富永 武、畑中 亜未、hideki、松本 寛庸、ミルカ、山崎 健一 *五十音順

音声ガイドナビゲーター | 森崎 ウィン (俳優・アーティスト)

会場構成 | dot architects / ドットアーキテクト

主催 | 東京都、東京都渋谷公園通りギャラリー (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

協力 | 立川市、羽村市教育委員会 後援 | 墨田区

公式サイト | <https://inclusion-art.jp/s/talesandtalks>

東京都渋谷公園通りギャラリーとは

東京都渋谷公園通りギャラリーは、アートを通してダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するために、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示等により、一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出します。

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8 渋谷区立勤労福祉会館 1F

開館時間 | 11:00-19:00

休館日 | 月曜日(祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始、展示替え期間

電話 | 03-5422-3151 FAX | 03-3464-5241

メールでのお問合せ | <https://inclusion-art.jp/inquiries/form.html>



東京都渋谷公園通りギャラリー外観
撮影：ただ (ゆかい)

本リリースにかかるお問い合わせ (取材申し込み・広報用画像など)

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 加藤、岡田、浅野

(公財) 東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 文化共生課

Tel : 03-5422-3151

Fax : 03-3464-5241

E-mail : inclusion@mot-art.jp

取材・画像使用申込書

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 行

E-mail : inclusion@mot-art.jp Fax : 03-3464-5241

「アール・ブリュット 2023 巡回展 ディア ストーリーズ ものがたり、かたりあう」展の取材をご希望の際は、本紙に必要事項をご記入の上、E-mail または FAX にてお申し込みください。

また、本展覧会の広報用素材として、画像データ 13 点をご用意しております。

画像掲載をご希望の際は、以下必要事項をご記入の上、当ギャラリー広報担当までご連絡ください。

1. 画像番号
2. 貴社名・貴媒体名
3. ご担当者名
4. ご連絡先メールアドレス・電話番号
5. 掲載予定日

※画像番号は別添・広報用画像一覧をご参照ください。

取材希望

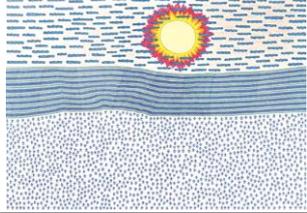
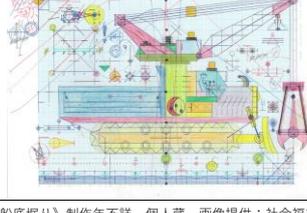
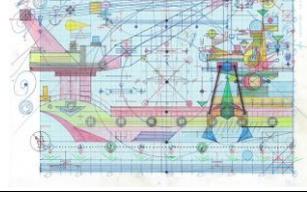
画像使用希望

取材希望日時	
使用希望画像	
貴社名	
貴媒体名	
種別	TV ラジオ 新聞 出版物 WEB フリーペーパー その他
発行・放送予定日	
ご担当者名	
E-mail アドレス	
ご住所	(〒)
お電話番号	
F A X	
その他	

【取材および画像使用時のお願い】

- ・ 掲載画像に添えて、当該作品のクレジット（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を明記してください。
- ・ 掲載画像のトリミング、文字載せはお控えください。
- ・ 記事掲載・放送日が決まりましたら、事前にご連絡ください。併せて、掲載内容もお知らせいただけますと幸いです。
- ・ 掲載・放送後、掲載誌（紙）PDF、DVD、CD、URL 等のご惠贈をお願いいたします。

アール・ブリュット2023巡回展 「ディア ストーリーズ ものがたり、かたりあう」
広報用画像一覧

<p>1 鎌江一美《ラーメンを食べに行く私とまさとさん》2021年、やまなみ工房蔵 画像提供：やまなみ工房</p> 	<p>8 松本寛庸《ブラックホール》2012年、作家蔵 ©Matsumoto Hironobu</p> 
<p>2 鎌江一美《まさとさん》2009年、やまなみ工房蔵 画像提供：やまなみ工房</p> 	<p>9 松本寛庸《未来》2021年、作家蔵 ©Matsumoto Hironobu</p> 
<p>3 富永武《通天閣（俺が飲まなければ誰が飲む）》制作年不詳、個人蔵 画像提供：鞆の津ミュージアム</p> 	<p>10 ミルカ《アオフウチョウ》2017年、YELLOW蔵 画像提供：YELLOW</p> 
<p>4 富永武《たご焼き大郎》2020年頃、個人蔵 画像提供：鞆の津ミュージアム</p> 	<p>11 ミルカ《フキナガシフウチョウ》2016年、YELLOW蔵 画像提供：YELLOW</p> 
<p>5 畑中垂未《ピンクの口紅（2本）》制作年不詳、作家蔵 撮影：五十嵐一晴</p> 	<p>12 山崎健一《クレーンダンプ》制作年不詳、個人蔵 画像提供：社会福祉法人グロー（GLOW）</p> 
<p>6 畑中垂未《青い街路灯》制作年不詳、作家蔵 撮影：五十嵐一晴</p> 	<p>13 山崎健一《クレーンの船底廻り》制作年不詳、個人蔵 画像提供：社会福祉法人グロー（GLOW）</p> 
<p>7 hideki《北仙台駅》2023年、作家蔵 撮影：五十嵐一晴</p> 	<p>お問い合わせ／お申し込み 東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 （公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 TEL：03-5422-3151 FAX：03-3464-5241 E-mail：inclusion@mot-art.jp</p>